

社会変化における食の問題点

2 Group : GAO Yuan · IKEDA Yoshimi · INOUE Yuto · KUBOTA Masayuki · MIURA Aya
OKAMURA Mai · SAKAI Arisa · TAHARA Mami · TAIRA Fumi · TOMOHARA Gou ·
YAMAHIRA Ryoya · Adviser: NAKASAKA Emiko

序章

今回のセミナーで講義を聞き、そのことで討論を重ねるうちに私たちは、「食」に関して最も白熱した討論を行えた。それは食というものが最も身近で主観的な視点で考えることが出来たからではないだろうか。今回のセミナーのテーマである「今世界に広がる健康危機：今何が出来るか」ということを考えたときに、食の問題が身近な問題だからこそ自分たちに出来ることがあると思った。数多くある食の問題の中でも、特に興味を持った4つの視点から考察したい。

第一章 日本の食の問題

日本人の食の問題の一つとして生活習慣病があげられる。ここでは生活習慣病の原因のひとつである栄養バランスの崩れについて考察していく。まず、次のデータを見てほしい。(図表1)この図から分かるように、1960年代からアメリカの食の文化を取り入れた結果として、栄養バランスが崩れ、生活習慣病が増加傾向にあると想像できる。生活習慣病に密接して関係するものとしてメタボリックシンドロームや肥満の問題もあげられる。また次のデータを見てもらいたい。(図表2)ここで注目してもらいたいのは女性が飽食時代に関わらずやせの傾向にあるという点である。これは先進国として、いくらでも食べられる状況下で節食をする女性に対して、美の意識が生まれ、そのためダイエットに注目がされたのではないかと考えられる。しかしこのダイエットについて間違えた知識が蔓延しているがために、栄養バランスが崩れ、女性の健康が損なわれるという問題点がある。このためダイエットや栄養バランスなどについての正しい知識が必要になってくるが、私たちは少なくとも知識がないのではない。知識があっても、必ずしも実行に移す力が個人にあるとは言えない。そこで、このような問題は教育や知識の問題に収まらないと考える。ここで私たちが考えるのは、実行に移したりするための力を持つということの必要性である。この力とは人と人の関わりではないだろうか。読売新聞社が実施した全国世論調査で、社会の人付き合いや人間関係が希薄になっていると思う人は、2000年7月の前回調査よりも7ポイント増え、2006年の調査では80%に達した。この人間関係が希薄になっている状況の中で正しいことを自分ひとりで判断し、実行するのは困難なことである。このことは生活習慣病にも言えることである。知識や教育もちろん大切だが、それにプラスして人間関係を構築することが何よりも大切であるだろう。このことにより、解決策として人間関係を深いものにするという政策が必要ではないかと思う。

第二章 発達段階を考慮した食・栄養の教育

エンオン先生の講義を通して、食には“double burden of malnutrition (栄養不良の二つの負担)”があると学んだ。飢餓による低栄養の問題、脂肪や砂糖、塩分などの飽和状態による富栄養の問題である。共通して言えることは、人間が健康を維持するために必要としている栄養素をバランスよく摂取できていないことである。どちらの場合も、様々な問題が存在するが自分に必要な食を選び、手にいれる方法を必要とする。そのためには子供への教育が必要である。そこで、子供を育てるためには女性の存在が大きく関わっているため、女性が食と健康に関する教育を受けることが必要である。同様に、女性だけでなく男性にもまた教育が必要になる。また、食は地域やその土地の文化も大きく関係するため、個人や地域などでのミクロの視点や、国や世界などでのマクロの視点での教育が必要である。その中でどの状況でも考慮すべきは、それぞれの各発達段階に応じた教育ではないだろうか。

しかし、それぞれの各発達段階に応じた教育を行うことはそう簡単ではない。例えば個人で考えると、糖尿病患者は血糖コントロールのために教育入院を行う。その中で、患者の生活習慣(食事、運動)の改善に

よる合併症予防が一般的に重視されている。しかし、培ってきた食生活を変更することは容易ではないため、何度も教育入院を繰り返してしまう人も多い。何故なら、年齢が上がるほどその人が積み重ねてきたものが大きくなるからである。壮年の人の生活習慣は中年の時の生活習慣が元になっている。中年の生活習慣は青年期に、青年期は思春期に……と遡っていき、最終的には乳幼児にまで遡る。このように、人の生活習慣はその人の月日を経た蓄積（経験）が元になっているので、教育によって生活習慣を正すには時間と労力がかかる。このようなことを踏まえて、今の日本では、発達段階を考慮した食育を見直している。私たちの議論の中で、社会においても、発達段階を考慮した教育が必要なのではないか、と考えた。今の日本が直面している富栄養による健康障害を改善しようと思うのであれば、その前の高度経済成長や、終戦直後の貧困だった時代、また、それ以前の食文化も考慮していく必要がある。

世界には様々な段階の国（先進国、高度経済成長まっただ中の国、これからの成長を期待される国、発展途上の国）がある。このような国々に画一的な教育を行うわけではないが、ゆくゆくは自分たちで、自分たちに合った食を選択し手に入れる方法を習得する必要がある。例えば子供への教育と大人への教育は、内容や教え方は全く違うが、目的はよりよい健康の確立、次の段階を考慮した教育であるように、国の発達段階に応じ、将来の発達を考慮した介入が必要なのではないだろうか。次の段階があるという意識を持った教育が必要なのではないか。貧困から裕福になるまでの変化で、今の先進国のような失敗を繰り返さないためにも、栄養のバランスという視点は貧しい段階でも必要なのではないか？そのことはさらに、発展途上国の場合でも、何を自分たちのために今後生産するか、獲得するかという指針の決定を支えるものになるに違いない。

第三章 先進国と途上国のアンバランス

世界の食糧問題を考えたとき、現在の人口をまかなえるだけの食料はあるが、世界の食糧分配の現状をみると、先進国と発展途上国の間には不条理な格差が存在している。途上国は、自国の豊かな土地で生産した栄養価の高いものを輸出し、それによって栄養価の低いものしか食べられない現状である。例えばスーダンでは、国家事業であった灌漑地帯に植えられているのは、輸出用の綿であり、飢えに苦しんでいるスーダンの人々のための食糧ではない。このような現状があるのは、政府の経済優先政策として換金作物の生産が奨励されている背景があるからだ。

食糧分配の不平等の解決策として、食糧援助が挙げられるが、この援助により依存体質をつくり、自立を妨げるという問題を含んでいる。またほかの策として、先進国と途上国間での対等な貿易を試みた例があるが、一部の人々にだけ儲けがもたらされ、不平等の改善に至らなかった。

そこで私たちは、長期的な見通しをした、食に関する技術や教育の援助が必要だと考えた。地主に解雇されると他に職もなく、長年同じものしか作ってこなかったために自給用の食物を生産する知識もなく、たかさんの人が飢えで亡くなったという実例がある。ここで必要だったのは、物質的な援助ではなく自立につながる援助、つまり、農作物の生産方法やそれに関わる技術を伝えることである。そのために教育が有効である。自給自足ができるようになれば、援助に依存することもなくなり、その後援助を打ち切っても自立し、生活していけるようになるのではないかと、考える。

第四章 食のグローバル化に伴う問題

世界の中で食のグローバル化が進み、それによって新たな健康問題が起こっている。日本の食の問題の中で生活習慣病が欧米の食を取り入れることによって増えている問題もそのひとつである。グローバル化が進み、他の文化を取り入れることによって、自国の食文化が乱れ、健康被害をもたらすということが世界各国で問題となっており、そのことを身近に感じることができるので、私たちはこの問題に取り組みたいと考え、考察した。

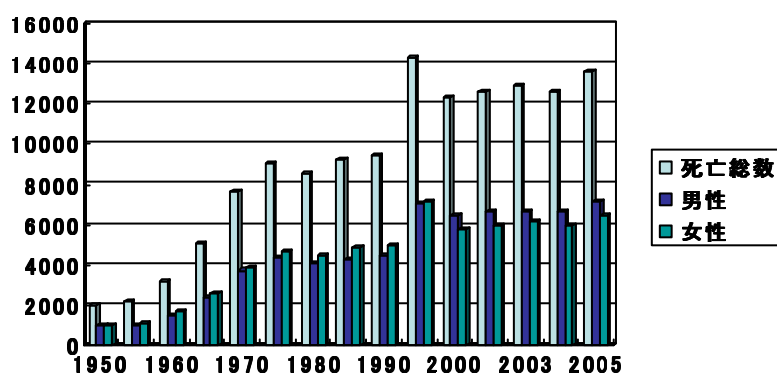
私たちは最初、インドのコカコーラ社進出に伴った水汚染問題からも、多国籍企業がただ利益を追求して他国に自社の商品を販売することを目的として健康問題に関して考えてないことから起こる問題と考えてい

た。しかし、この多国籍企業問題について調べるうちに、企業は企業なりの努力をしているのだと気づいた。例えば、マクドナルドやタコベルなどのファストフードなどではヘルシーメニューを大々的に取り上げ、健康の大切さについても認識して実行していたのだ。しかし、このヘルシーメニューはすぐなくなった。このことから、消費者の行動が関係していると考えられる。つまり、いくら企業が努力しても商品を購入する消費者が健康のことを考えた消費行動をしなければ意味がない。消費者が健康のことを考えた消費行動をとることで、多国籍企業の姿勢を変えることができる。グローバリゼーションは時代の変化上必要なものであり、それを受け入れて生活していかなければならない。その中の問題点である多国籍企業などの食の問題は消費者の意識で克服することができる。私たちは問題に対処しながら新しい文化を形成してきた。今までのように、問題を認識した上でそれを変えることができるはずだ。ひとりひとりが問題の重大さを認識し、自分のことから実行していくことが大切であると思う。

まとめ

以上4つの問題が重要だと考えた。食と栄養の問題を考えただけでも、このように様々な問題や対策が挙げられ、1つのことを解決しようとしたときに、いろいろな角度から見なければならない。自分たちにできることは何かを考え、その専門性を活かして役割分担を行うことが大切である。専門分野を互いに補いながら、「健康」という共通の目的に向かって行動していきたい。

図表1：



図表2：

肥満者(BMI 25 以上)の割合(20 歳以上)

